まちづくり研究センター報告書
2023年度

文京学院大学

巻頭あいさつ

まちづくり研究センター　センター長　古市 太郎

2019 年 4 月、本郷･ふじみ野両キャンパスに開所した「まちづくり研究センター（通称：まちラボ）」は、産官学民の連携による新たな社会創造を目的に、学生と教職員も一丸となりまちづくり活動を展開しています。地域の様々な方々に多大なるご協力をいただきまして、ここまで地域活動を広げられてきたことに大変感謝をしております。

本郷キャンパスでの活動は、主としてまちづくりを学ぶ授業を通して実施されています。地域文化・伝統の保存と継承、居場所づくり、パラスポーツの実践、芸術や社会貢献を通じた地域交流の場づくりなど、授業に留まらない地域実践活動を通してまちづくりに貢献しています。一方、ふじみ野キャンパスは、授業ではなく全てがボランティア活動です。市役所、地域団体、高校や商店会などと連携し、明るく住みやすいまちづくりに向け、多世代の方々が交流する場などが作られています。

学生にとって、まちラボの活動に参加することは通常の教室での授業とは異なり、実際に様々な人々と出会い、語り合い、そして夢の一部を実現させるために協働し、さらには成果を社会に還元する段階まで体験するため、大変ではありますがとても有意義な経験をしています。世代を超えた方々とのコミュニケーション力、企画立案能力、地域課題の発掘能力などを地域の方々のお力を借り学ぶ良い機会となっています。まちラボは人と人が集まり語り、課題を共有し、その解決に向け力を合わせ行動する点に素晴らしさがあります。

最後となりますが、今年度の活動成果をこの報告書にまとめ、お世話になりました皆様方にお届けいたします。是非一読され、皆が夢を語り合うまちづくり活動を共に推進させていきたいと願っております。

今後とも、よろしくお願いいたします。

目　次

巻頭あいさつ

「コミュニティ」が含意するもの：「つながり」の文脈をこえて …… 1

「まちラボ」とは …… 3

まちラボはどんな場所？ …… 5

■まちラボプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ …… 7

1．芸術のマーケティング …… 8

2．障がいのある方々との「スポーツ」があるまちづくり …… 9

3．文京まちあるきコースづくり …… 10

4．地域の「居場所づくり」と周知活動 …… 11

5．SDGs 推進を目指したエコロジーキャンパス・プロジェクト …… 12

6．都市における日常の小さなサードプレイス …… 13

7．ねこっちさんビデオ通信～文京 Deep な人 …… 14

■まちラボプロジェクト実習Ⅰ・Ⅱ …… 15

1．那須塩原地区の地域活性化に向けた取り組み
—環境ビジネスの提案とその実現可能性分析— …… 16

2．「こまじいのうち」と「こまぴよ」の魅力とは　—場所を支える仕組みについて— 17

3．秋葉原文化の創造的継承　—分離されたコミュニティを繋ぐ— …… 18

4．異文化理解研究 …… 19

■まちラボ研究活動・地域活動 …… 20

1．文京区学生支援担当者連絡会議（通称：地域ニーズの会） …… 21

2．地域と繋がる掲示板 …… 22

3．Sorting Art プロジェクト …… 23

4．ふじみ野市イベント参加／ぶんぶん新聞 …… 24

5．移動式屋台を用いた「日常の小さなサードプレイス」 …… 25

6．郊外論再審—都市化と地域社会研究会 …… 26

まちラボカレンダー（2023 年度　まちラボ本郷の活用状況） …… 27

「コミュニティ」が含意するもの：「つながり」の文脈をこえて

まちづくり研究センター　センター長　古市 太郎

日々生活を送るなかで、何かしら、「コミュニティ」という言葉を耳にしたり、その言葉の内容について話したり、また自分の口からこの言葉を発したりした経験があるのではないでしょうか。そういうコミュニケーションのなか、コミュニティが含意するものとは、「信頼」、「つながり」、「絆」といったポジティヴなものが多いといえます。バウマン (Bauman 2001:1-3=2008: 7-11) によると、グローバル化、つまり「ヒト・モノ・カネ」の流動化が増すほど、安定とゆるぎない場所への希求が人々の間に高まるといいます。それゆえ、今日の人々に、コミュニティが「常に善きもの」であり「心休まる温かい場所」として映るのは、われわれが失ってしまったものを全て体現する「失われた楽園」を象徴しているからである、とバウマンは指摘します。そして、わが国においては、1995 年の「阪神・淡路大震災」以降、自身の地域社会を見直す機会が増え、この「コミュニティ」という言葉に注目が集まってきました。

また、日本におけるコミュニティという言葉の初出をたどると、「地域共同体・国体」あるいは「地縁組織」がタブー視されて来た歴史があり、コミュニティがそうした歴史を埋め合わせるために出てきたという経緯も知ることができます。（古市 2012）

さて、コミュニティという言葉が一般に理解されたのは、「コミュニティ ― 生活の場における人間性の回復」（1969 年 国民生活審議会）においてです。こうした「コミュニティ政策」はどのような認識下でうちだされたのでしょうか。有名な冒頭文が以下です。

「いかにわが国の経済成長率が高いといっても、生活の場における人間性が失われたのでは、人間の幸福はありえない」

筆者なりに解釈すると、「いかに経済的豊かさが達成されたとしても、生活の場において、その豊かさを共有する者（仲間）がいない場合、果たしてそれは幸福といえるのでしょうか」となります。「生活の場における人間性」の解釈が難しいところではありますが、ここで重要な点は、コミュニティが「幸福」と関連付けられているところです。経済的豊かさを追求していくと「裕福」になることはできるが、「幸福」にはなりえないという点が面白い。この冒頭文を興味深くさせているのは、1969 年という時期で、まさに、高度経済成長真っただ中において、「幸福」を論じているということです。

しかしながら、1969 年頃の高度経済成長期とは、全く別の社会状況にいる日本。だからこそ、「幸福」という論点が意義深く感じられます。現在、コミュニティが話題に上がると、上記した「つながり」の文脈で論じられることが多いです。そこで、経済社会状況が厳しい日本において、「子どもの貧困」あるいは「社会的孤立」といった社会問題が深刻化する中、「つながり」の先／手前にある「幸福とは」という論点でコミュニティを考えていくことが重要ではないでしょうか。つまり、コミュニティを語れば「ただ仲良くなる」といった表層的な面だけでなく、「何のためのつながりなのか」という一歩進んだ議論ができると考えるからです。

今、「コミュニティ」を論じるということは、「時代として」1969 年時点とは違う「幸福」観でもあり、また「意味として」単なるつながりとは違う「幸福」を観るということでもあるということから、これまで見過ごされてきたかもしれない「コミュニティの意味」があぶり出されてくるのではないでしょうか。

【参考文献】Bauman,Zygmunt,2000, *Liquid Modernity*, Polity Press=2001、森田典正訳、『リキッド・モダニティ――液状化する社会』大月書店 .
古市太郎 , 2012,『コミュニティの再創成に関する考察』早稲田大学出版 .

「まちラボ」とは

●「まちラボ」の理念と目的

「まちラボ」とは、「まちづくり研究センター」(英語表記はSocial Design Center)の略で、本学の建学の精神「自立と共生」に基づく共生社会の構築を目指す「実験空間」である。この空間は、本学人間学部 コミュニケーション社会学科の基盤となる教育理念を備えた「教育・研究の場（研究所)」でもある。教育は、授業、地域で行うゼミの課外活動やボランティア活動の中で展開され、教員が中心となる研究活動へと発展していく。

「まちラボ」では、社会課題、とくに社会的「距離・不平等・格差」に対し、共生社会の構築に向けた国内外での社会貢献型プロジェクトの企画･運営を､学生が主体的に「産･官・学・民」の体制から取り組み、成果を社会に還元していくことを目指す。

まちづくり研究センター概念図

●「まちラボ」の活動

「まちづくり研究センター（まちラボ)」は、2019 年 4 月、社会の課題に取り組む産官学民連携型学習を活発化するために開設された。

本郷・ふじみ野両キャンパスに拠点があり、ふじみ野では郊外型（1-2 年生)、本郷では都市型（3-4 年生）の社会問題をテーマに取り組む。学生たちは､大学内では見えてこない実社会の課題に対し､地域や企業､行政の方々と協働しながら取り組んでいくのである。

ふじみ野キャンパスでは、ボランティアとしての活動を通じて、課題解決に向けた基礎力であるコミュニケーション能力、チーム力などの育成強化を図る。

本郷キャンパスでは、まちラボプロジェクト演習、まちラボプロジェクト実習というプロジェクト型学習を軸に、多様なテーマから課題を選び、理論と実践を相互に学習しながら、新たな社会の形成に必要な仕組みを創造する力を養っていく。

まちラボ本郷は、赤いロゴがガラス扉に大きく描かれたカフェのような内装の部屋である。この部屋を空き時間や昼休みの休憩場所として利用する学生が増えてきた。定期的に顔を出す学生も多い。教職員の方々も学内での打合せに使用している。体調の関係で環境のよい場所を探していた先生は、日常的にまちラボで過ごすことで元気に仕事を続けている。

大学見学の高校生には「こう見えて授業中」と説明するが、授業中の学生たちが自発的に話し合う様子を見て深くうなずき、どうしたらこうなれるかという質問を受けたこともある。高校生の見学する表情が徐々になごやかになる様子もたびたび見られた。

●4つのタイプのまちラボプロジェクト

まちラボのプロジェクトには、単位化されるものと自主的なもの、本郷を拠点とするもの、ふじみ野を拠点とするもの、両方で展開するものがある。自主的な地域活動プロジェクトには、活動プロジェクトと研究プロジェクトがあり、教員が中心となって提案された企画に運営委員会からの承認を受け、始動する。

2023 年度は、新型コロナの規制が解けて自由に活動できるようになり、まちラボ本郷のキッチンを利用する機会も増え、学生が中心となる活動が多くなった。

４つのタイプのプロジェクト概要と掲載ページ

① 授業プロジェクト（単位化）➡ p.8 ～ 14、p.15 ～ 19

授業プロジェクトは、コミュニケーション社会学科 3 年生必修のまちラボプロジェクト演習、4 年次に卒論の代わりに合同報告書にまとめるまちラボプロジェクト実習がある。いずれも 10 人前後の少人数で行われる実践的なプロジェクト学習となる。また、授業内活動であるが、まちラボや地域に出て展開するイベントが増えてきた。

② 本郷で展開する地域プロジェクト（ボランティア）➡ p.21・22

文京区内他大学との連携プロジェクトや社会福祉協議会共催のシンポジウムがあり、掲示板活用も活動の一部としている。

③ 本郷ふじみ野共同プロジェクト（授業内研究プロジェクト）➡ p.23

本郷とふじみ野の教員が、コンセプトと手法を共通とする体験型授業を展開。3 年目となった 2023 年、環境芸術学会にて研究発表を行った。

④ ふじみ野で展開する地域プロジェクト（ボランティア）➡ p.24 ～ 26

移動式屋台を活用して、地域の拠点やイベント会場に出店。古着を活用したワークショップなどを展開。地域の方々と知られざるふじみ野の歴史を浮き彫りにする郊外論再審を開催。ふじみ野高等学校との協働で学生の活動を学生のことばでつづった「ぶんぶん新聞」発行などの活動を展開している。

まちづくり研究センター 担当教職員

センター長：人間学部コミュニケーション社会学科　古市太郎

■まちラボ本郷運営委員会

運営委員：経営学部　川越仁恵　外国語学部　赤松淳子　人間学部人間福祉学科　青木通

アドバイザー：島田昌和理事長　研究員：森下英美子　事務担当：滝川多美

■まちラボふじみ野運営委員会

運営委員：児童発達学科　菖蒲澤侑　心理学科　文野洋

コミュニケーション社会学科　中山智晴、岩舘豊

研究員：栗原真史　事務担当：渋谷由佳

まちラボ利用者に聞きました。

あなたにとってまちラボ とはどんな場所？

場所とは、人間存在の契機である✱（古市）

初めて文京学院と出会った場所。おいしいにおいのする居心地の良い場所✱（貫井）

いろいろな方が過ごしてもらえるよう環境づくりをしました。皆さん来てくださいね✱（森下）H

動きが生まれる場✱（岩舘）

通常の教室と違い、教員と学生の距離がなく、同じ目線で話ができる。ゼミのように少人数で話し合うようなもの、何か共同作業をする際に、とても良い場だと思う✱（甲斐田）

まちラボは、わいわいできる場所です✱（登丸）

文京のこの地に生きる人たちの課題や問題を発信する拠点、それがまちラボ✱（岩崎）

まちラボ本郷

夜ラボ＋折り紙＆書道体験のコラボ

多様な場面で使える居場所！✱ 気兼ねなく訪れられる居場所 ✱ 主に授業で使用させて頂いていて、普段の教室よりもラフに気軽に色んな人と話せる場所 ✱ まちラボとは、文京生にとっての居場所です ✱ 第２の食堂 ✱ 気軽にこれる場所 ✱ 何でもできる場所 ✱ 皆の和を広げる場所 ✱ 人とのつながりができる場所 ✱ 憩いの場！ぬくもりを常に感じられます！✱ 癒しの場！皆で作業をするときに最適最高！！✱ 入口から近いのですぐ入れる。大きい窓があるので光を浴びながら作業できる ✱ アットホームな雰囲気で作業できる ✱ 静かで落ち着く場所。コミュニケーションが取りやすい空間 ✱ 落ち着く場所コミュニケーションしやすい場所 ✱ 景色が良いので、時々外を見ながら作業しています。また、木材が多く使われているのでリラックスできます ✱ 学生全員の居場所！✱ 堅くない”ラフ”な空間、日常の延長線上で授業を受けることが出来る ✱ みんなで仲良くわちゃわちゃできて学びを広げる場所 ✱ 他の教室とは違う楽しい空間！！✱ 先生と学生の密なコミュニケーション ✱ グループを集める作業応援する場所 ✱ 便利、快適、最高！！✱ いつでもふらっと来て、いつまでもいられるような居心地のいい場所！優しくて温かい雰囲気があってみんなの居場所♡✱ 集合場所 ✱ おしゃべりできる図書館 ✱ ゼミは一生懸命に、まちラボ･夜ラボ･その他はわいわい楽しく遊べるところ！ ✱ ひと息 ✱ いこいの場 ✱

折り紙コーナー

いつも、みんなでお昼休みに利用してます！！家みたいな空間でスキです♡ ✱ まちラボにはお昼休みの時におじゃましてます！！ 友達と楽しくお昼ご飯をたべています！ あたたかくてすごく居心地のいい場所で大好きです✱ お昼食べる時に、いつも使ってます！！ すごく落ち着く場所で大好きです♡✱ ホッとできる場所✱ フラッと気軽に立ち寄れる場所✱ 明るくて優しい空間✱ みんなの集合場所✱ ゼミで使う場所✱ 人とのつながりを感じる場所✱ サードプレイス✱ 의자 방석이 있는 것이 좋다！（椅子の座布団があるのが良い！）✱ 마치라보 최고！사랑합니당！（まちラボ最高！愛している！）✱ 요리도 할 수 있어（料理もできる）✱ 카페처럼 예뻐（カフェのようにきれい！）✱ 적은 인원으로 공부할 수 있어서 즐거워용！（少ない人数で勉強できて楽しいよ！）✱ 얼굴을 맞출 수 있고 친구들이랑 친해질 수 있어서 좋아요！（顔を合わせることができて友達と仲良くなれて良いです！）✱ 여러분의 표정을 알기 때문에 수업을 즐겁게 들을 수 있다（みんなの表情がわかるから授業を楽しく受けることができる）✱

まちラボふじみ野

学生の勉強している姿も職員の方のお昼の様子も見える素敵な空間★✱ 우리 마치라보에서 봐요！（まちラボで会いましょう！）（新井）

アイディアがあふれる場所✱（石村）

カフェのようなサードプレイス！✱（寺島）

外の風景を見たり他の学部の先生や学生さんたちと交流したりしながらも、集中してお仕事も進められる居心地のよい場所✱（米澤）

他学部の学生さん、先生との交流ができて、“ひろがり”を感じられる場所✱（小出）

ガラス越しに外の景色が見え、季節を感じられる心地良い場所（滝川）H

大学と地域をつなぐ場（栗原）F

やすらぎの場所。かつてない居心地の良い職場（渋谷）F

✱ 人間学部 ✱ 経営学部 ✱ 外国語学部 ✱ 保健医療技術学部 H まちラボ本郷 F まちラボふじみ野

まちラボプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ（通年）

人間学部コミュニケーション社会学科３年生の必修授業。
地域社会を教育・研究のフィールドと捉え、
社会問題解決へ向けての地域再生の要となるプランナーや
コーディネーターの能力を有する人材の育成を目的としている。

プロジェクト演習 報告書１
芸術のマーケティング（島田・小西プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書２
障がいのある方々との「スポーツ」があるまちづくり（青木プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書３
文京まちあるきコースづくり（貫井プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書４
地域の「居場所づくり」と周知活動（古市プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書５
SDGs 推進を目指したエコロジーキャンパス・プロジェクト（中山プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書６
都市における日常の小さなサードプレイス（岩舘プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書７
ねこっちさんビデオ通信～文京 Deep な人（岩﨑プロジェクト）

プロジェクト演習
報告書
1
まちラボ本郷

芸術のマーケティング

■演習担当教員、学生　島田 昌和・小西 孝典、学生 11 名

■連携先　文京区教育推進部児童青少年課　白山地区児童館長　川綱新二様

■プロジェクト概要

このプロジェクトは、東京芸術大学出身の作家が主催する KOMOGOMO 展とコラボを３年間続けた経験を元に、地域の児童館や育成室の小学生を対象としたアートワークショップ提供を切り口に地域との新たな交流をめざした。

前期中に本学出身で児童の放課後預かり事業を手がける、一般社団法人ファストステップ代表の大島実季さんから、経験談を伺った。それをもとに、小学生を対象としたアートワークショップ内容を話し合い、着古しのタイダイ染め、自然素材を活かしたキャンドルづくり、マイナースポーツであるモルック競技体験の３回のワークショップ実施の基本骨格が出来上がった。それに基づいて、前期中から実際の実施内容のテストや試作を行い、白山東児童館や誠之育成室の見学・施設確認・担当スタッフとの打ち合わせをおこなった。

後期からは、それらのプランの詳細な実施計画、手順の策定、ワークショップ内容の改変などに取り組んだ。実際の実施日は①10 月 26 日タイダイ染め@白山東児童館、②11 月 9 日ペットボトルモルック@誠之育成室、③11 月 30 日廃油キャンドルづくり@白山東児童館、となった。これらの３回のワークショップにコミュケーション社会学科での学習内容を反映させて、SDGs を意識し、①古くなったシャツやトートバックを染色して再利用する、②飲み終わった飲料用ペットボトルをモルックのピンに再利用する、③揚げ物をした後の廃油を固め、瓶詰め等の瓶を利用してキャンドルにすることで生まれ変わらせるという共通のテーマができてきた。

昼休み等も使ってかなりのワークショップ・リハーサルもおこなったが、最初の実施では予定通り行かない部分もあり、課題を残す結果となった。ワークショップの企画担当者は、それぞれ持ち回りで担当を替えていったが、児童の実際の指導・補助者を他の学生が毎回行ったことで、段々とスムーズにアート活動を進めることができていった。毎回 15 ～ 20 名程度の児童が申し込んで参加してくれて、うれしそうに制作したり、競技を楽しんでいたのが印象的であった。また、既成概念に囚われがちな我々大人と違い、自由な発想で大胆な作品をそれぞれに作り出す子供たちの力に目を奪われた。児童、保護者、施設側スタッフから、好意的な反応をいただくことができた。

タイダイ染めの染料準備

ガラス瓶に紙粘土でデザインを付け、廃油を流し込んで固めているところ

プロジェクト演習
報告書
2
まちラボ本郷

障がいのある方々との「スポーツ」があるまちづくり

■演習担当教員、学生

青木 通、学生 5 名

■連携先

文京総合福祉センター・リアン文京、塚本書店、TAKASAKI ～ YA、伸松堂書店、立野画材店、堀江米店

■プロジェクト概要

「障がい者」の視点でまちづくりを実践する可能性と課題を探るために、地域イベントの企画と実践を行った。前期は障がい者のスポーツ活動や社会参加の状況について調べ学習を行い、イベント種目としてモルックを採用した。モルックはフィンランド生まれのニュースポーツであり、モルックと呼ばれる木の棒を投げ、スキットルと呼ばれる 12 本の木製ピン倒すゲームである。スキットルには 1 から 12 の数字（点数）が記され、加算点数が 50 点になるようにスキットルを倒していく簡易な競技ルールである。本プロジェクトにおいては室内でも実施することができる段ボール製を用いた。

【プレイベント実践】

11 月 4 日に文京総合福祉センターの祭りイベントにモルックのブースを出店した。目的は本イベントに向けての参加者対応と運営シミュレーションである。センター内の屋根付き駐輪場内に 2 面のコートを設営し、モルックを 10 回投げてその合計得点を競う形式でゲーム実践した。これはイベント参加者が 400 人から 500 人と想定されていたことから本来のチーム戦ではゲーム実践が難しいと判断したためである。小学生やその保護者、障がい者など延べ 100 人の参加があり、順番待ちの行列ができるなど大いに盛り上がるブースとなった。ここでの反省点として参加者に対する得点状況の視覚化があげられた。

モルック交流会の様子

モルック

【イベント実践】

11 月 26 日にまちラボで障がい者、地域住民を交えたモルック交流会を実施した。知的障がい者 6 名、保護者 3 名、リアン文京放課後等児童デイサービスびおら職員 5 名、地域住民 5 名（2 組の親子を含む）、文京生 3 名の 22 名の参加があり、混合で 4 チームを作り、通常ルールに準じた形式でリーグ戦を行った。ゲームの回数が増すごとにチーム内で話し合う場面が多くなり、競技中の言葉かけも頻繁になる様子がみられた。当日に初めて顔を合わせる形ではあったがコミュニケーション形成にモルックが大きな役割を果たしたといえる。

【総括】

ルールがシンプルなレクリエーショナルなスポーツ種目を採用することによって継続的なイベント化とそこに行けば必ずできるという拠点化が進む可能性が示唆された。障がい者自身が参加できる環境作りが課題となるが、地域の社会財と住民をつなぐスポーツコーディネーターの育成・養成が必要といえる。

プロジェクト演習
報告書
3
まちラボ本郷

文京まちあるきコースづくり

■演習担当教員、学生

貫井 万里、学生 13 名

■連携先

合同会社 Vanta（地図製作）、文京学院大学 GSI グループ、カイ日本語スクール

■プロジェクト概要

【プロジェクトの紹介と今年度のトピックス】

「文京まちあるきコースづくり――文京区の魅力の発信と発見」プロジェクトは、学生たちが東京都文京区周辺の様々な魅力ある場所を発見し、自分たちで決めたテーマに沿って、見所スポットを紹介するプロジェクトである。2023 年度は、「日本文化体験コース」と「レトロかぶれコース」と「坂道・健康コース」の 3 つのコースを作成した。

「日本文化体験コース」では、座禅や写経体験ができる江戸時代からの古刹、林泉寺や、折り紙会館、大名屋敷跡である肥後細川庭園と六義園、街歩きの途中にほっと一息がつけるまんぷくカフェなど、日本文化を体感できる場所が紹介されている。

「レトロかぶれコース」では、今から 1900 年前に創建されたとされる根津神社から、明治の文豪、森鷗外の旧居「観潮楼」跡に建てられた森鷗外記念館、昭和レトロな雰囲気を味わえる喫茶こころと喫茶ペガサス、そして夕日がきれいに見える谷中の階段、「夕焼けだんだん」を巡り、近代建築を代表する巨匠ル・コルビュジエ設計の国立西洋美術館（2016 年に世界遺産に登録）がコースの終着点を飾っている。1 日で様々な時代の香りを楽しめる贅沢なコースである。

「坂道・健康コース」は坂道が多いからこそ、土地の起伏と様々な景観が楽しめるという文京区の特徴を最大限に活かしたコースである。早稲田駅を出発点に目白・関口を中心とする 5 つの坂道を巡る A コースと、谷中・千駄木を中心とする 4 つの坂と文京区と台東区の境界にある通称「へび道」を巡る B コースを設定している。どちらも、坂道で汗を流し、エネルギーを消費した後に休憩できるお勧めのカフェが掲載されている。坂道を歩くことで、美しい風景を楽しみつつ、ダイエットや健康効果も期待できる、運動不足な人や健康志向な人にお勧めである。

文京学院大学 GSI グループとカイ日本語スクールのご協力を得て、12 月 11 日（月）に、両校の留学生 7 名と日本人学生 1 名を迎えて「折り紙＆書道体験イベント」をまちラボ本郷で開催した。日本人学生のサポートで参加者たちはひらがなや自分の好きな漢字の書道に取り組んだ。また、日本人学生と留学生が一緒に同じテーブルを囲み、鶴やクローバー、兜などを折り紙で折った。最後に参加者の中で互いに好きな書道作品を選び、第 1 位と第 2 位の入賞者には文京区特製のお土産「花咲菓石けん」を、その他の参加者には折り紙を贈呈した。参加者は日本文化体験と日本人学生との交流をとても楽しんでいる様子であった。また、「坂道・健康コース」は都内のまち歩きスポットを紹介するサイト「偏愛東京」への掲載を予定している。

「折り紙＆書道体験イベント」の様子

プロジェクト演習
報告書
4
まちラボ本郷

地域の「居場所づくり」と周知活動

■演習担当教員、学生　古市 太郎、学生 9 名

■連携先　さきちゃんち、動坂テラス、文京区社会福祉協議会

■プロジェクト概要

演習の目的は「居場所づくり」である。本プロジェクトの重要な点は、あらかじめテーマや活動内容が設定されていないため、学生自身でどのようなプロジェクトに取り組みたいのかを模索することから始まった点だ。

まず、プロジェクトの目標設定として、プロジェクトに参加するメンバーの問題意識を探るため、SDGs17 項目を用いて、それぞれ関心のあるテーマを発表した。共有されたテーマの中で、共通するテーマについて話し合い、最終的に「安心できる場所」をつくることを目標に設定した。その後の話し合いでは、詳細なプロジェクト内容について検討したが、安心できる場所の具体的なイメージが固まらず、学生としてできる範囲とは何か、そもそもどんな人が居場所を必要としているのかなど、私たちの居場所づくりに対する知識や経験が足りていないことが分かった。

そこで、先行研究として各自が居場所づくりについての書籍を読み進めながら、並行する形で様々な居場所について学ぶため、文京区内にある、子どもから高齢者まで幅広く地域の居場所を提供している「こまじいのうち」「動坂テラス」「さきちゃんち」の 3 つの団体の視察を行った。

第 5 回夜ラボ「オーナメントつくろう会」

その後、3 つの団体の視察から得たものを踏まえて、学生間で話し合いをさらに重ねた。その結果、知識だけでなく実際に現場へと身を置き、経験、ノウハウを学ぶ必要があるのではという考えになった。居場所づくりのより詳細な活動内容の模索と実現可能性を検討するために、「動坂テラス」「さきちゃんち」へ 2 つのチームに分かれて、8 月から 10 月にかけて、「丁稚奉公」にでた。ボランティア参加後は、2 つのチームそれぞれが得られたものを共有し、学生として活動できることは何なのかを明確にしていきながら、「安心できる居場所づくり」という私たちの共通テーマとボランティア参加後からの考えをすり合わせ、11 月から、毎週木曜日 18：00 ～ 19：30 まで、「夜ラボ」を開催するに至った。

第 6 回夜ラボ「Xmas＆忘年会」

「夜ラボ」というイベントは、手探りの中から作り上げたものであり、熟議を重ね、足りない知識や経験を視察やボランティアで補い、学生自らが試み創りあげた意義深い企画となっている。

プロジェクト演習
報告書
5
まちラボ本郷

SDGs 推進を目指した エコロジーキャンパス・プロジェクト

－学生の環境意識調査とグリーンカーテンによる温暖化抑制効果の検証－

■演習担当教員、学生　中山 智晴、学生 11 名

■連携先　文京学院大学 学生支援グループ 法人事務局施設課、株式会社上尾グリーンガーデン

■プロジェクト概要

本プロジェクトは、エコロジーキャンパスの推進を目指した取り組みであり、今年度は大きく 2 つの調査研究から構成されている。

1 つ目は、温暖化抑制への取り組みである。具体的には、夏場のエアコン電力消費量の抑制化実験である。校内で最も日差しが強いと思われる学食前のガラス窓から入射する太陽光を削減することで、どの程度室内温度が低減されるのかを実験により検証することにある。今回は、ゴーヤのグリーンカーテンを設置することで、ゴーヤの成長量と室内外の温度変化を、特に夏休み中に計測することで、グリーンカーテンの効果を検証した。その結果、3 度前後の温度低下に寄与することなどが分かった。また、校内に緑が増えることによる心理的なエコロジー効果もあると考えられた。この結果は、2023 年 8 月に開催された文京区主催の「クールアースフェア」にて発表された。ブースを訪問する方が想像以上に多く、学生はその対応に戸惑いながらも、貴重で楽しい経験ができたと話していた。

2 つ目は、本郷、ふじみ野キャンパスに通う学生 315 名に、キャンパスエコロジーに関する意識調査を実施した。この調査の目的は、大学の SDGs 推進のための基礎資料を得ることにあり、そのために、まずは学生の意識を調査・検討することで学生が思うエコロジー化への意見を収集・整理し、学内のムダを軽減する具体得な内容や対応策を調べるとともに、学生の意識を改善し、学生自らが行動に移すための方法を考察することである。調査の結果、学食や購買所で発生する食べ残しや売れ残りへの対応に関心が高いことが分かった。また、学生の環境への意識は高いものの、具体的に何に取り組めばよいのか分からない、活動したいときにどこに相談に行けばよいのか分からない、との声も多く聞かれ、キャンパスエコロジーを推進する上で、この点を改善していくことが今後の課題であることが分かった。

グリーンカーテン設置作業

グリーンカーテンの成長過程

クールアースフェア出展

プロジェクト演習
報告書
6
まちラボ本郷

都市における日常の小さなサードプレイス

■演習担当教員、学生　岩舘 豊、学生 12 名

■連携先　Rural Coffee 株式会社 Rural Frontier、mama made、文京堂、Valerio Luana、ソーシャルプロジェクトマネージメント研究会

■プロジェクト概要

本プロジェクトでは、都市における日常の小さなサードプレイスづくりの一環として、地域イベント「向丘・白山コミュニティフェス」を開催した。

4 月、プロジェクトはあらためて向丘・白山地域の課題を探索するところからスタートし、前期は Rural Coffee での「お仕事カフェ」の運営に関わりながら、地域住民や事業者と交流していった。また自分たちの学生生活をふりかえりながら、その中で、遊べてゆるやかにつながれる場所の必要性という課題を把握した。そして、向丘・白山地域では子育て世代が増えていることから、上記の課題に対し、親子を対象とした場の創出という方法を採用し、向丘・白山というローカルなイベント「コミュニティフェス」を学生たち自らが立案した。

まちフェスのポスター

チームは、全体統括およびアクティビティを担当する企画・運営部門、マルシェを担当する営業・地域連携部門、発信を担当する広報・集客部門に分かれ、プロジェクトリーダーとサブリーダーを中心にプロジェクトを実施した。マルシェは、向丘・白山地域の事業者に出店を依頼し、3 つの出店を得た。親子向けのアクティビティは、まちラボ本郷前のスペースを活用したストラックアウトなどを実施した。各回参加者は、それぞれ 70 名近くの来場者があり、最も来場者が多かった 10 月には 100 名以上の親子が来場した。内容は、学生たちがそれぞれの発想やアイディアを持ち寄って、回を重ねるごとにバージョンアップしていった。今年蒔かれた種を、育てていきたい。

12 月まちフェスの様子

イベント企画にあたり、熱心に指導してくれた坪田莉來さん、大久保剛さん、藤井彰吾さん、出店はじめ協力してくれた地域の方々へ感謝申し上げたい。

プロジェクト演習
報告書
7
まちラボ本郷

ねこっちさんビデオ通信～文京 Deep な人

■演習担当教員、学生　岩﨑 正昭、学生 6 名

■連携先　文京メディア･ブリッジ合同会社（取材対象紹介）、株式会社ファーストショット（映像技術会社）、激弾 BKYU 制作部（編集指導）

■プロジェクト概要

本プロジェクトは根津、向丘、千駄木、白山『ねこっちさん』（＋本郷、弥生、西片など学校周辺も含め）と名付け、ドキュメンタリー作家のように街に出て、地域の人々とかかわり、人々の営みを知り、そして未来に向けた活動状況などを取材し映像に記録するプロジェクトである。

2023 年度制作した作品は 3 本。

本年度は「富山方式」といわれる福祉システムを都市に根付かせるという試みを模索するグループ、既成概念としての「博物館」に疑問を持ち「博物館の側から街に赴く」との想いで地域に繰り出す人たち、女性の社会進出に積極的に取り組んでいる団体は文京区の地から問題提起し、女性たちの社会進出をバックアップしている。

『コドモカフェオトナバー (tummy)』の主催者橋本奈生美さん、『路上博物館』の館長森健人さん、『文京区男女平等センター』の会長千代和子さんと副会長細谷はるかさんにインタビューし、活動にかける情熱や思いを語っていただいた。

コドモカフェオトナバー(tummy)

路上博物館

文京区男女平等センター

これらの人々に対して地域の課題や問題に向き合い、学生全員で問題解決に向けた糸口を探りだし、アーカイブ的な作品作りを目指している。

授業の流れとしては学生たちで地域のことを調べ、討議してゲストを選定し、台本を作成、撮影プランを立て、そして撮影に挑み、5 分～ 10 分の作品に仕上げる。

撮影はプロデューサー、ディレクター、カメラマン、リポーターなどの役割を決めてチームで行われ、編集もチームで議論しながら進めて作品を作り上げていく。

作品作りのノウハウは日本テレビのドラマなどで活躍しているプロのカメラマンの映像制作者に指導を受けたり、劇団の制作者による編集方法を学んだりと、基本的な撮影システムや編集技術を身につけ、10 分ほどの作品に仕上げて、文京映画祭へ出品する。

文京映画祭は文京区とかかわりのあるグループ・団体が自主制作作品を出品している。小学生から大学生、社会人まで幅広い世代の人々が参加する映画祭である。

まちラボプロジェクト実習Ⅰ・Ⅱ
（通年）

人間学部コミュニケーション社会学科４年生の選択授業。
社会問題の改善のために学生自身が問題を提起し、
その改善に向けて立案し、組織体制を構築しながらプロジェクトを進めていく実践的講義。
本授業は「まちラボプロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」で学習した内容を踏まえたもので、
プロジェクト成果を社会へ還元することを最終目的としている。

プロジェクト実習 報告書１

那須塩原地区の地域活性化に向けた取り組み
―環境ビジネスの提案とその実現可能性分析―（中山プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書２

「こまじいのうち」と「こまぴよ」の魅力とは
―場所を支える仕組みについて―（古市プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書３

秋葉原文化の創造的継承　―分離されたコミュニティを繋ぐ―（岩舘プロジェクト）

プロジェクト演習 報告書４

異文化理解研究（貫井プロジェクト）

プロジェクト実習
報告書
1
まちラボ本郷

那須塩原地区の地域活性化に向けた取り組み
― 環境ビジネスの提案とその実現可能性分析―

■実習担当教員、学生　中山 智晴、学生 10 名

■連携先　栃木県那須塩原市複合施設「Leu.」

■プロジェクト概要

本プロジェクトは、フィールドを栃木県那須塩原地区に選定し、これから環境に配慮した地域活性化を進めていこうとする地元企業と連携し、企業の経営ポリシー、地域の現状などを考慮したうえで、環境の視点から地域活性化の具体的内容を検討するものである。本研究で得られた知見は、今後の那須塩原地区の地域活性化に役立つための企画を立てることが目的で、本成果を実際に行動に移すのは数年後先の話となる。

本プロジェクトの目的を整理すると以下のようである。

1. 栃木県那須塩原地区における地域活性化のための具体的内容を調査・分析する。
2. その内容は、地域の環境を改善する地域未利用資源を活用した環境ビジネスとする。
3. 具体的な環境ビジネスが実際に成立するのかを、地元住民、都市部の若者への聞き取り調査、アンケート調査から考察し、地元企業の経営理念である＃交流　＃創造＃共創　＃連携　#SDGs　＃地域資源の活用　＃地域活性化に配慮した活性化案を企画・立案する。

上記３点を検討するために、以下のような調査研究を実施した。

1. 那須塩原地区における「地域資源」や「地域課題」を那須塩原市などの調査結果を参考に抽出し、経営戦略の立案に利用される「SWOT分析」の手法を用い、環境に配慮した活性化案を考察した。
2. 地域未利用資源として、大量に廃棄されている規格外野菜や食品ロスを活用した環境ビジネスに注目した。
3. 規格外野菜や食品ロスへの意識を、地元民や都会の若者などに調査し、＃交流　＃創造　＃共創　＃連携　#SDGs　＃地域資源の活用　＃地域活性化に配慮した活性化案の実現性や課題について考察した。

調査結果から、地域内外の若者が「出会い」、「交流」し、地域で廃棄される「規格外野菜」の新たな活用と販売ルートを確保する目的で那須塩原地区にはない新たなローカル・フードバンクの設立を提案した。都市－農村が「連携」し、「地域未利用資源の活用」そして、「地域活性化」につながっていくことには大きな社会的意味があるし、地元企業の経営コンセプトや地元農家の収入の確保にもつながり、農家離れを抑止し、都市からの新規就農者の増加にもつながる可能性がある取り組みであると判断した。

都市ー農村交流により食品ロスの活用を考えるブレインストーミング風景

調査・連携先フィールド　那須塩原市「那須フィッシュランド」風景

プロジェクト実習
報告書
2
まちラボ本郷

「こまじいのうち」と「こまぴよ」の魅力とは
― 場所を支える仕組みについて―

■実習担当教員、学生

古市 太郎、学生８名

■連携先

こまじいのうち（NPO 法人　居場所コム）、文京区社会福祉協議会

■プロジェクト概要

本プロジェクトは、東京都文京区本駒込にある「『こまじいのうち』と『こまぴよ』の場所の魅力」について考察することが目的である。まずは１章から４章にかけて居場所の必要性をめぐる先行研究を行い、次に５章で、「こまじいのうち」のスタッフ・オーナーさんへのインタビュー調査、そして調査結果からあぶりだされた課題をもとにしたイベントについて検討した。最後に、６章で、12 月 27 日に行ったイベントとその意義について検討した。

１章では、東京都および文京区の高齢者あるいは若者にまつわる問題、２章については、「格差社会の出現とひとり親世帯が抱える問題 ～日本型格差社会からの脱却～」、３章では「引きこもりと若者支援」、４章では高齢者の「孤独死」について、５章では「『こまじいのうち』・『こまぴよ』」の活動場所について検討した。

このように先行研究を踏まえ、実践活動をするのが、この実習の特徴である。まず、7 月 20 日に、「仲良く遊ぼうピヨピヨルーム」というタイトルで、交流の場を設けることによって住民同士のつながりを図ることを目的に、他の子と仲良く、楽しく、交流するイベントを行った。また、８月３日の富士神社のお祭りの際に、参加者あるいはスタッフへのインタビューを通して、また参加者からアンケート調査を通じて地域のニーズを掘り出すことができ、とくに、行政のようにルールが正確に決まっていないことが「こまじいのうち」の強みであることが分かり、今後のイベント開催について大きな情報を得ることができた。

最後に、これまで行ったイベントからの反省、「こまじいのうち」スタッフへのインタビュー調査、祭りの際の地域住民へのアンケート調査を通じて、そこから出た課題と助言を踏まえたイベントの開催、そのイベントと全体を通じて、「こまじいのうち」と「こまぴよ」の魅力について考察した。

赤ちゃん対象イベント

「こまじいのうち」にて

プロジェクト実習
報告書
3
まちラボ本郷

秋葉原文化の創造的継承
―分離されたコミュニティを繋ぐ―

■実習担当教員、学生

岩舘 豊、学生 10 名

■連携先

千代田区文化振興課、秋葉原で社会貢献を行う市民の会リコリタ、神田五軒町町会、株式会社はじまり商店街

■プロジェクト概要

本実習では、秋葉原にねざしたローカル文化の創造的継承をテーマにプロジェクトに取り組んだ。3 年次に、秋葉原で社会貢献を行う市民の会リコリタ（NPO リコリタと表記）と株式会社はじまり商店街へのインタビューを実施し、そこから活動がスタートした。プロジェクトは「リコリタコラボチーム」「高架下活用ものづくりチーム」の 2 チームに分かれて実施した。

「リコリタコラボチーム」は、ヒートアイランド現象への取り組みとして NPO リコリタが実施していた打ち水っこ大集合（8 月）にスタッフとして参加した。また、打ち水の活動が今年で 20 周年を迎えることから、記念イベントに向け、20 年間の活動をふりかえる冊子を制作し、そのために資料整理やインタビューを実施した。並行して、NPO リコリタと連携したパラスポーツイベントを企画した。千代田区文化振興課を介して、すでに町会としてボッチャにとりくんでいた神田五軒町町会をつないでもらい、2024 年 1 月にボッチャ大会を行った。

「高架下活用ものづくりチーム」は、秋葉原駅と御徒町駅の間にある高架下商業空間 2k540 で活動する株式会社はじまり商店街と連携し、高架下を活用したイベント案の検討を重ねた。そして、イベントに参加しながら、ものづくり職人へのインタビューへ取り組み、学生企画のサウナハット試作、もうひとつはジュエリー職人とのコラボワークショップへと至った。

何かを誠実に引き継ごうとするとき、そこには創造性が宿る。本プロジェクトが試行錯誤しながら見出した「仮説」は、本質的でアクチュアルであると思う。

神田明神での打ち水の様子

高架下ものづくりイベントに向けた打ち合わせの様子

プロジェクト実習
報告書
4
まちラボ本郷

異文化理解研究

■実習担当教員、学生

貫井万里、学生 12 名

■連携先

文京学院大学 GSI グループ

■プロジェクト概要

【プロジェクトの紹介と今年度のトピックス】

異文化理解ゼミでは、3 年の後期にそれぞれの関心に沿って「食文化」「新大久保」「エンターテインメント」の 3 グループに分かれ、研究テーマについて文献で研究し、関係がありそうな場所や人物（計 18）にインタビューを 1 年にわたって実施した。研究の成果を還元する一方で、調査研究の中で見出された課題の解決を目指して 2 つのイベントを実施した。

● 11 月 11 日（土）「異文化寿司作り体験（Let's Cooking Global Sushi!）」イベント

このイベントは、異文化交流と日本の伝統的な食べ物である寿司を様々な国の人に楽しんでもらうことを目的にまちラボ本郷で実施した。マグロやイクラ、卵、きゅうりなどの伝統的な寿司ネタだけではなく、キムチやクリームチーズ、ケバブなどの各国の食材を提供した。その際、参加者の宗教的な戒律やアレルギーなどに配慮して食材を厳選し、食材名を日本語と英語で表記するなどムスリムへの対応（ハラール対応）の方法を実践的に学んだ。当大学の GSI グループのご協力を得て、マレーシアやウズベキスタン、トルコなどのイスラーム諸国を中心に五か国から 8 名の留学生がイベントに参加した。参加者は自分の好きな食材を組み合わせて、手毬寿司づくりに挑戦した。

「手まり寿司作り体験イベント」の様子

● 11 月 12 日（日）「聖地巡礼イベント」

文京区内にあるアニメの聖地として、『文豪ストレイドッグス』、『ちはやふる』、『刀剣乱舞 ONLINE』の舞台を巡る「聖地巡礼イベント」を実施した。事前に 3 作品の縁の地をリスト化して簡単なパンフレットを作成し、美術館や施設などからは写真撮影や入場などのイベントの協力を取り付けた。7 人の参加者が 3 つのグループに別れて文京区内の聖地を巡った。制限時間が約 2 時間と短かったため、3 グループとも『文豪ストレイドッグス』のコースを選んだ。『文豪ストレイドッグス』には、森鷗外記念館や根津神社、夏目漱石旧居跡、湯島神社、樋口一葉旧居跡、旧伊勢屋質店が含まれる。参加者は行きたい場所を自由に組み合わせ、好きな順番で巡った。最後にまちラボ本郷に集まり、聖地巡礼の感想、課題、地域活性化においてコンテンツツーリズムがどのように活かせるかを企画者と参加者が議論した。

「聖地巡礼イベント」の様子

まちラボ研究活動・地域活動

まちづくり研究センターにおける自主的な研究・地域活動。

教職員が企画者となり、大学や地域の中で展開する活動。

まちラボふじみ野では、学生が中心となって地域に出ていく機会が増えてきた。

活動報告書 1
文京区学生支援担当者連絡会議（通称：地域ニーズの会）（古市・森下・滝川プロジェクト）

活動報告書 2
地域と繋がる掲示板（森下プロジェクト）

活動報告書 3
Sorting Art プロジェクト（森下・菖蒲澤プロジェクト）

活動報告書 4
ふじみ野市イベント参加／ぶんぶん新聞（栗原・岩舘・菖蒲澤プロジェクト）

活動報告書 5
移動式屋台を用いた「日常の小さなサードプレイス」（栗原・岩舘・菖蒲澤プロジェクト）

活動報告書 6
郊外論再審 ― 都市化と地域社会研究会（栗原・岩舘プロジェクト）

活動報告書
1
まちラボ本郷

文京区学生支援担当者連絡会議
（通称：地域ニーズの会）

■担当：古市 太郎、森下 英美子、滝川 多美
■連携大学・機関：跡見学園女子大学、拓殖大学、中央大学、東洋大学、日本女子大学、文京学院大学、文京区社会福祉協議会・地域連携ステーション（フミコム）

コロナ禍で学生と地域との連携における形も変わる中、区内の大学の学生支援の取り組み内容と実施体制を伺う機会として「学生支援担当者連絡会議」（通称　地域ニーズの会）を立ち上げた。2020 年 4 月から毎月一度、連携大学の取り組みを伺い、時には行政も入りながら、お互いの情報交換を行い、現在に至る。

2021 年には跡見学園女子大学にて学生による報告会が開催され、2022 年は文京学院大学にて「学生ボランティア活動と地域が求めるもの」をテーマとした報告会・交流会が開催された。2023 年度は、3 月 14 日に東洋大学にて報告会を開催する予定である。

本学の報告チームは、3 年生の必修科目である「まちラボプロジェクト演習」より古市チーム「居場所づくり」の報告が予定されている。少し紹介すると、彼らは、居場所づくりのより詳細な活動内容の模索と実現可能性を検討するために、「動坂テラス」「さきちゃんち」へ 2 つのチームに分かれて、8 月から 10 月にかけて、ボランティア活動に出かけた。2 つのチームそれぞれが得られたものを共有し、「安心できる居場所づくり」という自分たちの共通テーマとボランティア参加後からの考えをすり合わせ、「夜ラボ」の開催にまでこぎ着けた。この報告を、まちラボふじみ野の後輩である 2 年生に聴いてもらう予定である。先輩たちの他大学での他流試合を、どのように見て感じるのか、大いに関心を持っている。

また、地域ニーズの会のメンバーである文京区社会福祉協議会との共催で、2023 年 11 月 18 日「地域における子どもの居場所」シンポジウムを開催した。さいたまユースサポートネットの青砥恭氏、居場所コムの船崎俊子氏、本学から古市が登壇し、子どもたちをめぐる社会情勢から現場のエピソードまで、福祉と教育の視点からの話が続き、参加者からも活発な意見が投げかけられた。

学生だけでなく教職員も苦しんだ「コロナ禍」。この 3 年、「地域ニーズの会」に参加させていただいて、コロナ禍以前に戻るのではなく、少しずつではあるが、「別の形での学外実習の形」が動き始めている予感がしている。

「地域における子どもの居場所」シンポジウム

地域ニーズの会定例会議風景

活動報告書
2
まちラボ本郷

地域と繋がる掲示板

■担当：森下 英美子

緑の中の掲示板

まちラボ本郷の白いフェンスの向こう側には、歩道を通る人たちやバスを待つ人たちが目にすることのできるまちラボの掲示板が設置されている。

2023 年度はまちラボでのイベントが多数開催され、申し込み QR コードが大きく提示されたポスターで掲示板がいっぱいになることもあった。

まちラボプロジェクト演習の古市プロジェクトでは、学内の居場所として週 1 回放課後にまちラボを開放する「夜ラボ」が開催され、お茶とお菓子、ボードゲームなどを楽しむ様子が見られた。また、書道や折り紙体験など留学生の日本文化体験が貫井プロジェクトと合同で開催され、「夜ラボ」に国際的なにぎわいを追加した。さらに、地域の方々が週末に家族で訪れる岩舘プロジェクトの「コミュニティフェス」では、まちラボのレイアウトを大きく変更したフェス会場となり、まちラボの新しい魅力が引き出された。

毎月花や虫、鳥などのキャンパス内の自然を紹介する「まちラボ自然だより」は、自然が好きな職員が、キャンパス内の自然について写真と短い解説でつづった掲示を継続している。

今年は、少しメッセージ性を追加してみた。一昨年に続いてサクラの木に大発生したモンクロシャチホコの幼虫については、「迷子の毛虫がいます」と大きく示し、サナギになるために土にもぐりたくて降りてきているので、土のあるところに放してくださいと伝えた。ハシブトガラスがくわえてきた白いものがキッチンペーパーだったときは、写真に「食べられないよ」の言葉を添えた。そのたよりをのぞき込んでいた親子からは、「くわえている白いものが花のように見えた」とのコメントをいただき、美しいものに受け止めてくれたことをうれしく感じた。

担当者は、地域のハシブトガラスについての調査も行っており、2023 年度 日本鳥学会大会（2023 年 9 月 17 日・金沢大学）にて、周辺の市街地でハシブトガラスが大きく減少していることについて研究発表を行った。

活動報告書
3
まちラボ本郷
まちラボふじみ野

Sorting Art プロジェクト

■担当：森下 英美子、菖蒲澤 侑

2021 年度から取り組んでいる、分別を意識した工作についての実践と研究である Sorting Art は、今年度、授業での実践と研究発表という２つの成果を得た。

授業での実践については、2023 年 6 月 27 日に環境教育論、11 月 21 日に自然環境保護論の授業において、コミュニケーション社会学科の学生に対して七夕飾り、クリスマス飾りを作る実践を行った。基本的な流れは例年と同様だが、学生からの「結局ゴミになるのではないか」というリアクションを受け、実践の意図を丁寧に説明する必要があるという知見を得た。

この知見も踏まえて、３年間の実践を通して得られた、環境問題にアート活動から出来ることの一提案としての Sorting Art をまとめ研究発表した。「環境芸術」の社会的役割と実践的行為を対象とした創作活動と理論研究を行う、環境芸術学会第 24 回大会（2023 年 12 月 9 日・東京工科大学）において、「ゴミをアートで資源へ　Sorting Art の提案」を題目とする研究発表を行った。発表においては、分別によってゴミを資源にすることが出来、その時、工作やアート活動の方法論が有効であるという Sorting Art の特徴と開発の経緯を示したうえで、実践で得られた成果と課題を提示した。成果として、事前事後のアンケートから、SDGs や環境問題への意識は有意に上がったことを示すことができた。また、大学生を対象とする授業内での実践では、卒業後の活動に繋げるため、気楽さや楽しさ、自分でも出来る感覚を得られるようにデザインする必要があること、2023 年度の実践で得られた学生のリアクションから、ゴミの資源化や、ワークショップ等の意図については、こちらの想定以上に丁寧に説明し続ける必要があることを、課題として示すことが出来た。フロアから、卒業後に繋げるための現時点のアイディアについての質疑等があり、また他の研究者との交流とも繋がり、大学が行う社会的な活動についての刺激や知見を得られる研究発表となった。

学会口頭発表

2023年度に実施したSorting Art

袋の裏をうまく利用した作品

活動報告書
4
まちラボふじみ野

ふじみ野市イベント参加／ぶんぶん新聞

ふじみ野市イベント参加

■担当：岩舘 豊、栗原 真史、渋谷 由佳、菖蒲澤 侑
■連携先：ふじみ野市産業振興課・環境課、ふじみ野市商工会

対面行事再開以降、ふじみ野市で開催されている様々なイベントに、文京学院大学まちづくり研究センターとして参加している。2023 年度はエコラボフェスタ（2023 年 6 月 25 日／ふじみ野市・三芳町環境センターにて）と産業まつり（2023 年 11 月 3 日／福岡中央公園にて）に参加した。エコラボフェスタでは、環境について考えるというイベントの主旨をふまえ、学生研究員が牛乳パックと古着から切り出した端切れを活かしたバッグづくりのワークショップを考案し開催した。事前準備から本番まで、参加者が工作しやすくなる配置や声掛けを工夫し、学生の力で成功を得る機会となった。産業まつりは授業日の開催であったため、教職員中心の参加であったが、古着を用いたワークショップをしながら参加者と交流し、まちラボをアピールする時間となった。

イベント出展を通して、準備から実施、当日の来場者や主催者、他出展者との交流などの経験を積むことができる。地域住民や団体が集まるイベントへの参加は、まちラボふじみ野の活動をアピールする意味でも、地域の活気を感じ情報を得る意味でも重要である。来年度以降も継続していきたい。

エコラボフェスタの様子

産業まつりの様子

ぶんぶん新聞

■担当：栗原 真史、岩舘 豊、文野 洋、菖蒲澤 侑
■連携先：ふじみ野市産業振興課、埼玉県立ふじみ野高等学校、地域活動サークルぷんぷん

まちラボふじみ野では地域新聞（「ぶんぶん新聞」）を学生主体で発行し、ローカルな情報の交換・交流をつくりだす活動を継続して行っている。2023 年度には、第 3 号・第 4 号の編集・配布活動を中心的に行った。第 3 号では、前年度のまちラボの活動を紹介した。学生のアイデアでデザインを一新し、よりカラフルで楽しんで読める新聞となった。第 4 号では、活動紹介に加えて、ふじみ野高等学校の生徒会と連携し、高校生たちも書き手として参加する試みがスタートし、8 月に菓子屋ぶんぶんで共催した「スイカ割り大会」を高校生の視点から紹介していただいた。新聞はふじみ野市の協力のもと、市内小学校や公共施設にて配布した。新聞づくりは、編集、デザイン、各所への連絡、各記事の書き手など学生たち自身の「分担」と「コミュニケーション」を涵養（かんよう）する機会ともなっている。今後も高大連携での新聞づくりを継続し、地域新聞としてより一層の定着を目指したい。

左：第3号／右：第4号

活動報告書
5
まちラボふじみ野

移動式屋台を用いた「日常の小さなサードプレイス」

■担当：岩舘 豊、栗原 真史、菖蒲澤 侑
■連携先：地域活動サークルぷんぷん、読み聞かせサークルおはなしケムケム、ブルースカイ、大井ショッピング商店会、亀居銀座商店会、亀居中央商店会、ふじみ野市産業振興課、ふじみ野市福祉総合支援チーム、ふじみ野市社会福祉協議会、埼玉県立ふじみ野高等学校

普段の菓子屋ぷんぷん

まちラボふじみ野では、屋台をアイコンに緩やかに人々が居つき、繋がる場を生成する試みを重ねている。2023年度の活動では、商店街での居場所づくり活動の継続・定着と、埼玉県立ふじみ野高等学校生徒会と連携してのイベント活動の開始が成果として挙げられる。

まず、商店街での居場所づくり活動は、菓子屋ぷんぷん（地域活動サークルぷんぷん主催の子どもの居場所づくり活動と連携）を定期的に開催し、常連の小学生や参加者も増え、季節の行事に関連したイベント開催や、夏の縁日やクリスマス会での読み聞かせサークルおはなしケムケムとの連携など、活動が充実している。学生のアイディアでメンバーズカードやお菓子リクエスト、オセロや折り紙で遊べる場の提供なども始まり、駄菓子屋だけではない、子どもを中心に「誰でもいていい場所」という形が見えてきている。近隣の方からの認知も進み、おもちゃの寄付や、近隣の高齢者居場所づくり活動との交流も始まっている。また、近隣のイベントへの参加である「出張ぷんぷん」も発生し、ふじみ野市主催の子どもの居場所づくり活動報告会での報告の依頼もあり、活動の周知も進んでいるものと思われる。次の展開についても学生・教職員で議論しており、商店街を巻き込んでのイベントを開催する見込みである。

また、2023年度から、埼玉県立ふじみ野高等学校生徒会と連携し、年中行事の企画開催が始まった。今年度は、菓子屋ぷんぷんと連携してのスイカ割りや地域のハロウィンイベントへの参加、あやめ祭でのハロウィン企画と、夏・秋の行事を企画し、地域の方やあやめ祭参加者とともに楽しんだ。地域の構成員である大学生と高校生が連携し、地域に居場所をつくりだすことに挑戦する企画であり、2024年度にも継続する予定である。

活動が発展、充実する中で、アイコンとしての移動式屋台をより効果的に活用するため、大学内での居場所づくり活動や、学外でより手軽に、いつでも活用できる、のぼりやユニフォーム等のアイコンの作成も検討されている。活動の中で、構成員が必要を感じて生みだされる工夫の蓄積により、活動主体や活動エリア、対象にとって自然な居場所づくり活動を展開していきたい。

夏休みの縁日

出張ぷんぷん

ふじみ野高等学校と連携してのスイカ割り企画

活動報告書
6
まちラボふじみ野

郊外論再審――都市化と地域社会研究会

■担当：岩舘 豊、栗原 真史　■連携先：ふじみ野市社会教育課、上福岡歴史民俗資料館

ふじみ野市内には、1937年（昭和12年）から1945年（昭和20年）まで、「陸軍造兵廠川越製造所（火工廠）」があり、戦争で使用する爆弾や銃弾が生産されていた。その後、その跡地は転用され、現在のふじみ野市役所や公園、学校などになっている。本プロジェクトでは、この火工廠とその転用に焦点をあてながら郊外・ふじみ野の地域史をとらえなおすため、連続企画「旧軍用地の軌跡をたどる――まちの記憶・記録と郊外のまちづくり」を開催した。

2023年10月7日には、企画1「旧造兵廠（火工廠）をあるく、みる、きく」として、上福岡「火工廠」語り継ぐ会の熊谷洋興氏のガイドのもと、旧造兵廠跡地の散策や、上福岡歴史民俗資料館内の模型・資料の見学を行った。当日は計11名の参加があり、ふじみ野市内の住民7名、小学生2名、文京学院大学生2名といった多世代による交流となった。

11月19日には、企画2「旧軍用地とその転用から見る郊外社会」として、塚田修一氏（相模女子大学）と後藤美緒氏（東日本国際大学）を招聘した公開研究会を開催した（参加者数18名）。ふじみ野市と同様、首都圏3郊外の神奈川県相模原や千葉県の旧軍用地についての研究発表を受け、ふじみ野との異同、旧軍用地の記録・記録の保存・継承、さらなる研究課題など、論点は多岐にわたり、延長してもなお時間が足りないほど、活発な議論となった。詳細は別途編纂する報告書を参照されたい。

開催・運営にあたっては、共催者としてふじみ野市社会教育課、上福岡歴史民俗資料館の多大な協力を得た。心から感謝を申し上げたい。

企画1　まちあるきの様子

企画2　公開研究会の様子

まちラボカレンダー（2023 年度　まちラボ本郷の活用状況）

授業　高校見学・オープンキャンパス等　地域ニーズの会　地域活動・イベント　打合せ・準備等　休館日

4月

1 土	
2 日	
3 月	
4 火	
5 水	
6 木	まちラボ演習打合せ
7 金	
8 土	
9 日	
10 月	韓国語初級上級
11 火	
12 水	国際教育特講 初年次C(外)
13 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習
14 金	新文明の旅同窓会打合せ 甲斐田ゼミ、登丸ゼミ
15 土	
16 日	
17 月	韓国語初級上級 地域ニーズの会 GCI特講見学
18 火	
19 水	国際教育特講 初年次C(外)
20 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習
21 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
22 土	GCI特講Ⅰ- b
23 日	
24 月	韓国語初級上級
25 火	
26 水	国際教育特講 初年次C(外)
27 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習 高校見学
28 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
29 土	
30 日	

5月

1 月	韓国語初級上級
2 火	
3 水	
4 木	
5 金	
6 土	GCI特講Ⅰ- b
7 日	
8 月	韓国語初級上級
9 火	自然環境保護論
10 水	国際教育特講 初年次C(外)
11 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習 オープンキャンパス打合せ
12 金	甲斐田ゼミ、登丸ゼミ オープンキャンパス準備
13 土	GCI特講Ⅰ- b オープンキャンパス
14 日	
15 月	韓国語初級上級 地域ニーズの会
16 火	自然環境保護論
17 水	国際教育特講 初年次C(外)
18 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習
19 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
20 土	
21 日	
22 月	韓国語初級上級 入試広報取材 オープンキャンパス打合せ
23 火	自然環境保護論
24 水	国際教育特講 初年次C(外)
25 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習 まちラボ運営委員会
26 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
27 土	
28 日	
29 月	韓国語初級上級
30 火	自然環境保護論
31 水	国際教育特講 初年次C(外)

6月

1 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習 中高フィールドワーク
2 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
3 土	
4 日	
5 月	韓国語初級上級
6 火	自然環境保護論
7 水	国際教育特講 初年次C(外)
8 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習
9 金	甲斐田ゼミ
10 土	
11 日	オープンキャンパス
12 月	韓国語初級 高校見学
13 火	自然環境保護論
14 水	国際教育特講 初年次C(外) 高校見学
15 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習
16 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
17 土	高校見学
18 日	
19 月	韓国語初級上級
20 火	自然環境保護論 高校PTA見学
21 水	国際教育特講 初年次C(外) 東亜大学見学
22 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習
23 金	甲斐田ゼミ 高校見学
24 土	
25 日	
26 月	韓国語初級上級 地域ニーズの会
27 火	自然環境保護論
28 水	国際教育特講 初年次C(外)
29 木	韓国語初級 光云大学訪問 まちラボP演習・実習
30 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ

7月

1 土	
2 日	
3 月	韓国語初級上級 防災・リスクマネージメント論
4 火	自然環境保護論 スタディケーション
5 水	国際教育特講 初年次C(外)
6 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習
7 金	甲斐田ゼミ、登丸ゼミ 高校見学
8 土	
9 日	
10 月	韓国語初級上級
11 火	自然環境保護論 寺島ゼミ 高校見学
12 水	国際教育特講 初年次C(外)
13 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習
14 金	高校見学 オープンキャンパス準備
15 土	オープンキャンパス
16 日	
17 月	
18 火	自然環境保護論 高校見学
19 水	国際教育特講 初年次C(外)
20 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習
21 金	甲斐田ゼミ、登丸ゼミ コーヒーかす石鹸試作
22 土	オープンキャンパス
23 日	
24 月	韓国語初級上級（韓国風かき氷） 学習支援打合せ
25 火	地域ニーズの会
26 水	国際教育特講 初年次C(外)
27 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習
28 金	甲斐田ゼミ、登丸ゼミ 高校生見学 赤松ゼミ懇親会
29 土	
30 日	
31 月	

8月

1 火	社会連携推進室 ワークショップ
2 水	公衆衛生看護管理論
3 木	公衆衛生看護管理論
4 金	公衆衛生看護管理論 オープンキャンパス準備
5 土	
6 日	オープンキャンパス
7 月	まちラボP演習補講
8 火	
9 水	
10 木	
11 金	
12 土	
13 日	
14 月	
15 火	
16 水	
17 木	高校生見学
18 金	オープンキャンパス準備
19 土	オープンキャンパス
20 日	オープンキャンパス
21 月	岩舘自主ゼミ
22 火	シンポジウム打合せ (文社協にて)
23 水	
24 木	
25 金	
26 土	
27 日	
28 月	
29 火	
30 水	
31 木	

9月

1 金	産業保健看護学 実習発表会
2 土	
3 日	
4 月	
5 火	
6 水	
7 木	モンクロシャチホコ 計測
8 金	学校見学会準備
9 土	
10 日	学校見学会
11 月	
12 火	新文明の旅継続 委員会
13 水	
14 木	高校生見学
15 金	
16 土	
17 日	
18 月	国際文化・韓国語 初級上級
19 火	
20 水	初年次C(外) 統計学実験
21 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習
22 金	甲斐田ゼミ オープンキャンパス準備
23 土	
24 日	
25 月	国際文化・韓国語初級上級 高校見学 地域ニーズの会
26 火	まちラボ演習学生自主活動 寺島ゼミ
27 水	初年次C(外)
28 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ
29 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
30 土	

10月

1 日	
2 月	国際文化・韓国語 初級上級
3 火	寺島ゼミ
4 水	初年次C(外) 高校見学
5 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ
6 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
7 土	
8 日	
9 月	国際文化・韓国語 初級上級
10 火	寺島ゼミ
11 水	初年次C(外)
12 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ
13 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
14 土	
15 日	
16 月	地域社会学会打合せ 高校見学
17 火	寺島ゼミ
18 水	初年次C(外) 看護学科面談
19 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ
20 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
21 土	文京祭：向丘・白山 コミュニティフェス
22 日	文京祭
23 月	創立記念日
24 火	寺島ゼミ
25 水	初年次C(外)
26 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ
27 金	甲斐田ゼミ、登丸ゼミ 高校見学
28 土	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
29 日	
30 月	国際文化・韓国語初級上級 地域ニーズの会
31 火	寺島ゼミ

11月

1 水	初年次C(外)
2 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ
3 金	甲斐田ゼミ
4 土	
5 日	
6 月	国際文化・韓国語初級上級 高校見学
7 火	寺島ゼミ まちラボP演習イベント準備
8 水	初年次C(外) まちラボP演習自主試作
9 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ 高校見学、夜ラボ
10 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
11 土	まちラボP演習イベント 「ハラール寿司体験」
12 日	まちラボP演習イベント 「コンテンツツーリズム」
13 月	国際文化特講・ Global Englisheas・ 韓国語初級上級
14 火	寺島ゼミ
15 水	初年次C(外) 高校見学
16 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ 高校見学、夜ラボ
17 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
18 土	「地域における子どもの 居場所」シンポジウム
19 日	
20 月	国際文化・韓国語初級上級 高校見学 地域ニーズの会
21 火	寺島ゼミ
22 水	初年次C(外)
23 木	
24 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
25 土	まちラボP演習イベント 「コミュニティフェス」
26 日	まちラボP演習イベント 「モルック」
27 月	国際文化・韓国語 初級上級
28 火	寺島ゼミ
29 水	初年次C(外)
30 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ 高校見学、夜ラボ

12月

1 金	甲斐田ゼミ・登丸ゼミ 進学相談会準備
2 土	進学相談会＆ キャンパス見学
3 日	
4 月	国際文化・韓国語 初級上級
5 火	寺島ゼミ 学生面談
6 水	初年次C(外)
7 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ 高校見学、夜ラボ
8 金	甲斐田ゼミ 登丸ゼミ
9 土	
10 日	
11 月	国際文化・韓国語初級上級 高校見学
12 火	寺島ゼミ
13 水	初年次C(外)
14 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ 高校見学、夜ラボ
15 金	甲斐田ゼミ、登丸ゼミ 高校見学
16 土	
17 日	まちラボP演習イベント 「コミュニティフェス」
18 月	国際文化・韓国語初級上級 高校見学 地域ニーズの会
19 火	寺島ゼミ 高校見学
20 水	初年次C(外)
21 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ 高校見学、夜ラボ
22 金	甲斐田ゼミ、登丸ゼミ (クリスマス会)
23 土	
24 日	
25 月	
26 火	
27 水	まちラボP実習イベント (こまじいのうち)
28 木	
29 金	
30 土	
31 日	

1月

1 月	
2 火	
3 水	
4 木	
5 金	
6 土	
7 日	
8 月	
9 火	寺島ゼミ
10 水	初年次C(外)
11 木	韓国語初級 まちラボP演習・実習、ゼミ
12 金	
13 土	まちラボPイベント 大学入学共通テスト
14 日	大学入学共通テスト
15 月	国際文化・韓国語 初級上級
16 火	看護国家試験対策勉強会 バレンタイン特別レッスンGSI
17 水	
18 木	韓国語初級 光云大学訪問 まちラボP演習・実習、ゼミ
19 金	登丸ゼミ
20 土	
21 日	
22 月	国際文化・韓国語初級上級 地域ニーズの会
23 火	
24 水	
25 木	看護学科打合せ
26 金	
27 土	
28 日	
29 月	
30 火	
31 水	

2月

1 木	
2 金	
3 土	
4 日	
5 月	
6 火	
7 水	
8 木	まちラボP演習 文京映画祭準備 看護学科面談
9 金	貫井ゼミ面談 統計学補講
10 土	
11 日	
12 月	
13 火	家具修理相談 看護学科面談
14 水	キャリアセンターイベント 貫井ゼミ面談 文京映画祭準備 まちラボP演習
15 木	
16 金	コミ社面談
17 土	
18 日	
19 月	地域ニーズの会 (東洋大学)
20 火	まちラボ本郷 運営委員会
21 水	岩舘ゼミ秋葉原P会議 キャリアセンターイベント
22 木	
23 金	
24 土	
25 日	
26 月	家具修理相談
27 火	FUMIDAI練習
28 水	
29 木	

3月

1 金	
2 土	
3 日	
4 月	
5 火	保健師課程 学生交流会
6 水	
7 木	女子栄養大学 施設見学
8 金	
9 土	
10 日	学位授与式
11 月	
12 火	
13 水	
14 木	地域ニーズの会 報告会FUMIDAI (東洋大学)
15 金	
16 土	
17 日	
18 月	
19 火	
20 水	
21 木	
22 金	看護実習 オリエンテーション
23 土	
24 日	オープンキャンパス
25 月	
26 火	
27 水	
28 木	
29 金	
30 土	
31 日	まちラボ報告書発行

まちづくり研究センター　Social Design Center

文京学院大学まちづくり研究センター
報告書　2023 年度

発　行　日　2024 年 3 月 31 日

編集・発行　文京学院大学まちづくり研究センター

【まちラボ本郷】
〒 113-8668　東京都文京区向丘 1–19–1
TEL : 03-6240-0897　FAX : 03-6240-0898

【まちラボふじみ野】
〒 356-8533　埼玉県ふじみ野市亀久保 1196
TEL : 049-261-7859　FAX : 049-261-7864